

2418  
2



狂歌集

名家目録



9  
418  
2

9  
418  
2

天  
香



香  
香

香  
香

香  
香

香  
香

香  
香

花と繪ゝ毛のおの香と繪ゝ

月と繪ゝ毛のおの

光と絵ゝ毛のおの遠く清

湘洞庵の烟波の後人の道の京

撰の山泉の人の子昂の百馬

好の栗毛の鞭打の盧山の因行の十

八人あはれ〜硯あ〜さ〜

筆あはれ〜文山尺樹あ山越+

寸馬あ〜虎と叱〜豆人あ〜

木浅米氏あ〜海あ詩

歌車あ〜網川積雪

川溜あ〜楓橋夜泊あ

あ〜風流あ〜

言あ〜詩あ〜

あ〜顧惜之〜

重宝あ〜

西山主人あ〜

上車あ謹稿



はふ梅く

海老

雀の子

為西止

家

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '梅' and '雀'.

上車亭



子昂、馬也

毛

毛

毛

毛

子昂、馬也

毛

毛

毛



くちかひら

手つらつら

るるる

西末右

末右

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

江戸の

きんぎょ

きんぎょ

きんぎょ

東の

花園



淡  
香  
清  
雅  
幽  
蘭  
之  
韻  
也  
春  
風  
吹  
綠  
葉  
紅  
顏  
映  
日  
華  
光  
耀  
花  
枝  
吐  
蕊  
芳  
心  
展  
翠  
葉  
凝  
露  
珠  
玉  
滿  
枝  
頭  
香  
滿  
室  
清  
風  
送  
爽  
意  
悠  
然  
入  
畫  
中  
也  
癸  
卯  
年  
春  
月  
畫  
於  
滬  
上  
張  
大  
千  
畫  
於  
滬  
上



翠  
亭



梅  
蘭  
竹  
菊

華端喚醒玉梅魂  
袖春風不見痕  
未許捲簾新月上  
却教烟雨恼黄昏

乙酉仲秋蘇柳峰



以  
涼  
正  
蜀魄

五九



釣得長尾  
魚亦年棄  
志輕子笑  
月安在隨  
筆現仙瀨

雲峰野畫



漁父



花は乃香也物は

心も糸は

心も糸は

文句



漢

商



新

武

み

新

新

武

み

新

西の如くは、故小倉の遺蹟

し、東の如くは、新田の遺蹟

ありしとて、故小倉の遺蹟の如くは、

故小倉の遺蹟の如くは、

東の如くは、故小倉の遺蹟の如くは、

東の如くは、故小倉の遺蹟の如くは、

東の如くは、故小倉の遺蹟の如くは、

まじくあるはこころよるはれいふく  
を風流たさうにたふり結て筆の  
及ぶ名こころ人あんおほり花と花  
あそとてあつこ花あつ及ぶ  
別して文字いふの心と志は  
繪いふの形とあつこ花あん

車のみ川端おほりかこふ  
花のこころあつこ花あつこ  
おほり花のこころあつこ花あつこ  
おほり花のこころあつこ花あつこ  
おほり花のこころあつこ花あつこ  
おほり花のこころあつこ花あつこ  
古今集れはる繪ふのこころあつこ

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

画小移一出てゝふいゝるを讀むとらひ

よし讀む。風流のふいゝるを讀むとらひ

今の世も画も書もかゝるゝいふことゝ

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

名もいふことゝもなほしゝれども知のいふこと

い風流ふいゝるを讀むとらひ

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

いふことゝもなほしゝれども知のいふこと

おのれのまゝに花をさかすむるは  
 花のまゝに心をさかすむるは

花のまゝに心をさかすむるは  
 花のまゝに心をさかすむるは

志はふるも心をさかすむるは  
 志はふるも心をさかすむるは

こころをさかすむるは

花のまゝに心をさかすむるは  
 花のまゝに心をさかすむるは

古文

蘇園

八柳園



開成





朋山



山日  
月

一  
二  
三

四  
五  
六

七  
八  
九

關

清





かき



まきいのおやれ夏のこころ  
衣へのほりまきこ

止子

こころのまき

んまのまき

りまきあひまき

れとまきあひ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters 'い', 'え', 'の', 'り', 'の', 'り', 'の', 'り'.*



新秋一尺のふん

その乃月新いのかげ

夏乃東のま

争うてむねの縁

む子月か

又か(か)とあ〜  
うたれに

後之(後)を好か(好)る

山(山)を(を)入(入)る(る)を(を)笑(笑)

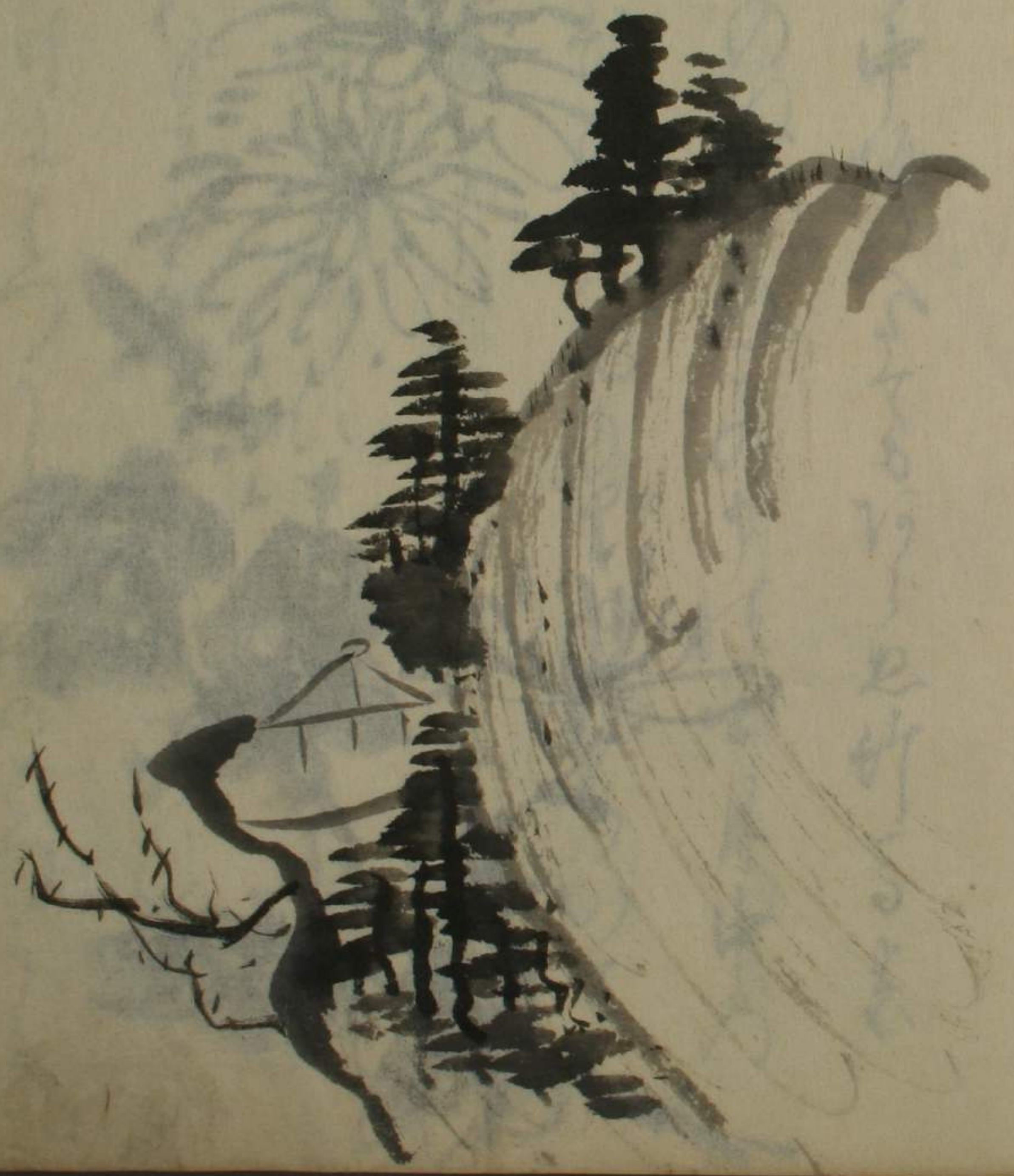
う(う)ち(ち)を(を)う(う)ら(ら)ぬ(ぬ)

山(山)を(を)入(入)る(る)七(七)十(十)の(の)翁(翁)

か(か)こ(こ)

山(山)深(深)之(之)浮(浮)世(世)乃(乃)  
介(介)此(此)秋(秋)も(も)な(な)り(り)  
お(お)下(下)り(り)夕(夕)を(を)摩(摩)  
水(水)く(く)ら(ら)り(り)也(也)

吳(吳)弁(弁)詠(詠)





しゆりしゆり中絶のいもりしゆりしゆり  
友あ。西ののののののののののの  
六百あ入果竹のいりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
難波あしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
たふしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
馬のいもりしゆりしゆりしゆりしゆり

あつて

元辰

縁 海もちりささるる

しあしかれ 船海のり

極夜ちりささるる 子ゆい

しあしかれ 友なり

あつて

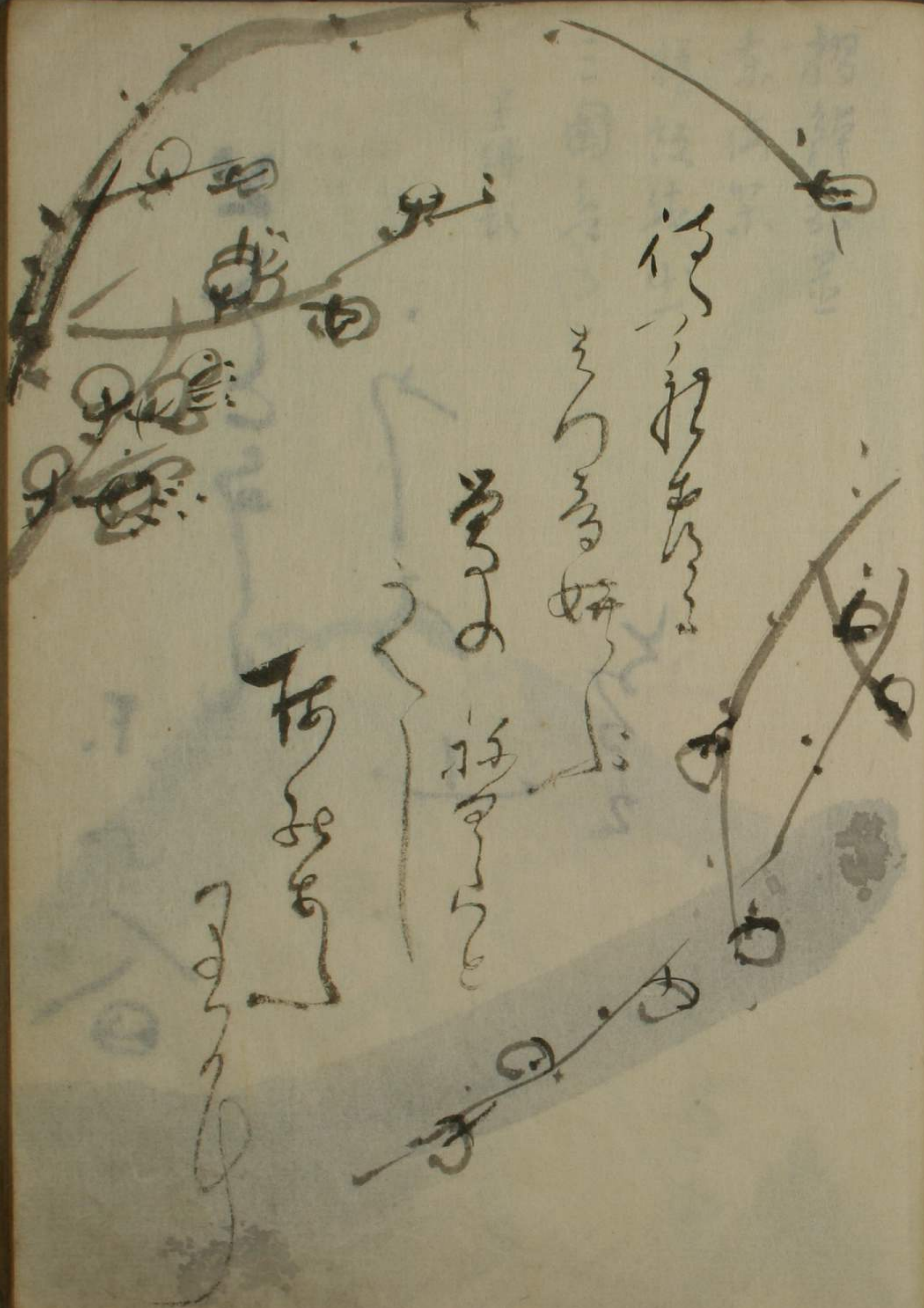
はつた

さうさ

さよの

あつて

あつて



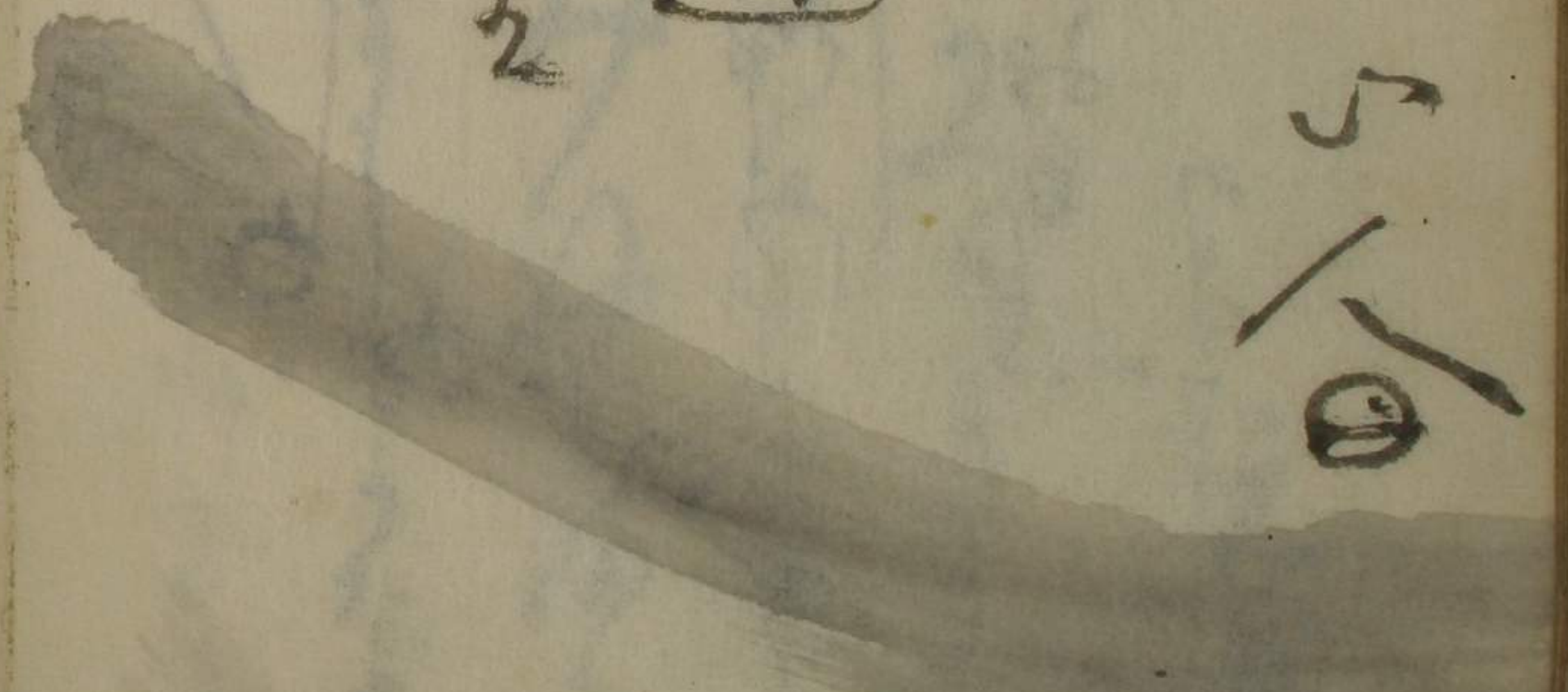


五五

五五

五五

五五



五五

五五

五五

五五

五五



草

栽

福

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



竹

遠志

のほろり 常帰

乃生 少礼

才一景



何

何

何

東都道 馬路

心

心

上

上



鳥の歌  
抑々いふ  
面法中  
鳥の歌

心  
心  
心

梅  
乃  
松

柳  
定  
文  
如



菊  
溪





松  
石  
竹  
梅  
四君子

松竹梅

松  
竹  
梅

松  
竹  
梅

松  
竹  
梅



六峰写  
印

深夜  
 舟中  
 歸宿  
 海人  
 吾  
 露  
 月  
 弄  
 雨  
 娘  
 媛  
 俱  
 送  
 老  
 林  
 分  
 徹  
 子  
 擲  
 肩  
 的  
 後  
 香

碎  
屬子







深き水のあふる  
しにゆく  
自り  
くせれ  
の  
く  
た

今あり  
の  
海

遠  
は  
心  
行  
後



ちりりり

にわたり

くちくち

きんぎょ



すいり

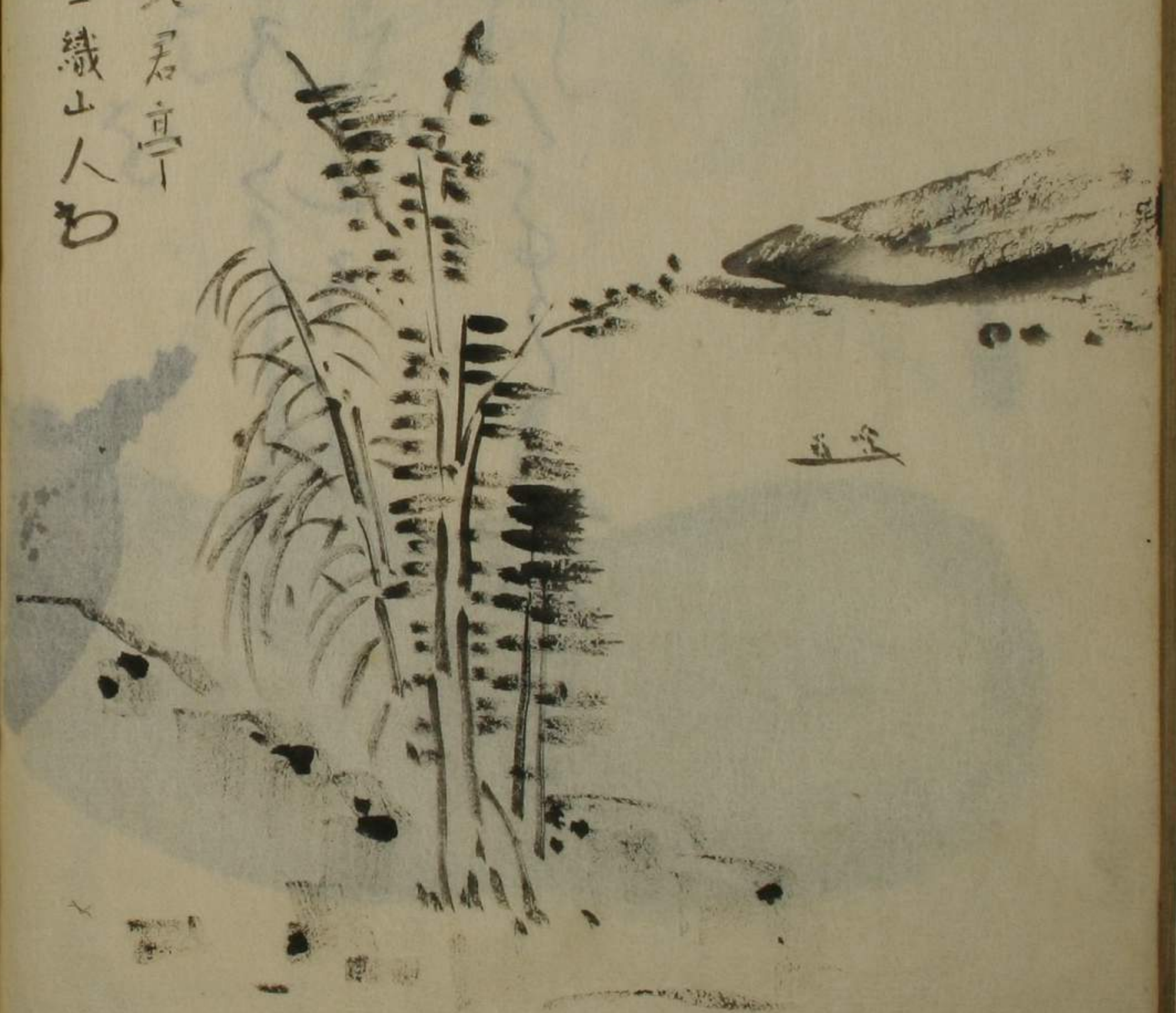
あまのこ

あまのこ



西海道人

甲申仲夏寫於此君亭  
三織山人也



其遷東郭五年來每日愁絕不識衣  
 野妻把杯苦酌哭醉 衰衣只採妓迴  
 細服強延歎演沒言樓寢席 寵  
 不罕一惜漸一三十兩俱絕流 為  
 二娘賊馬

物解字





竹有

竹有



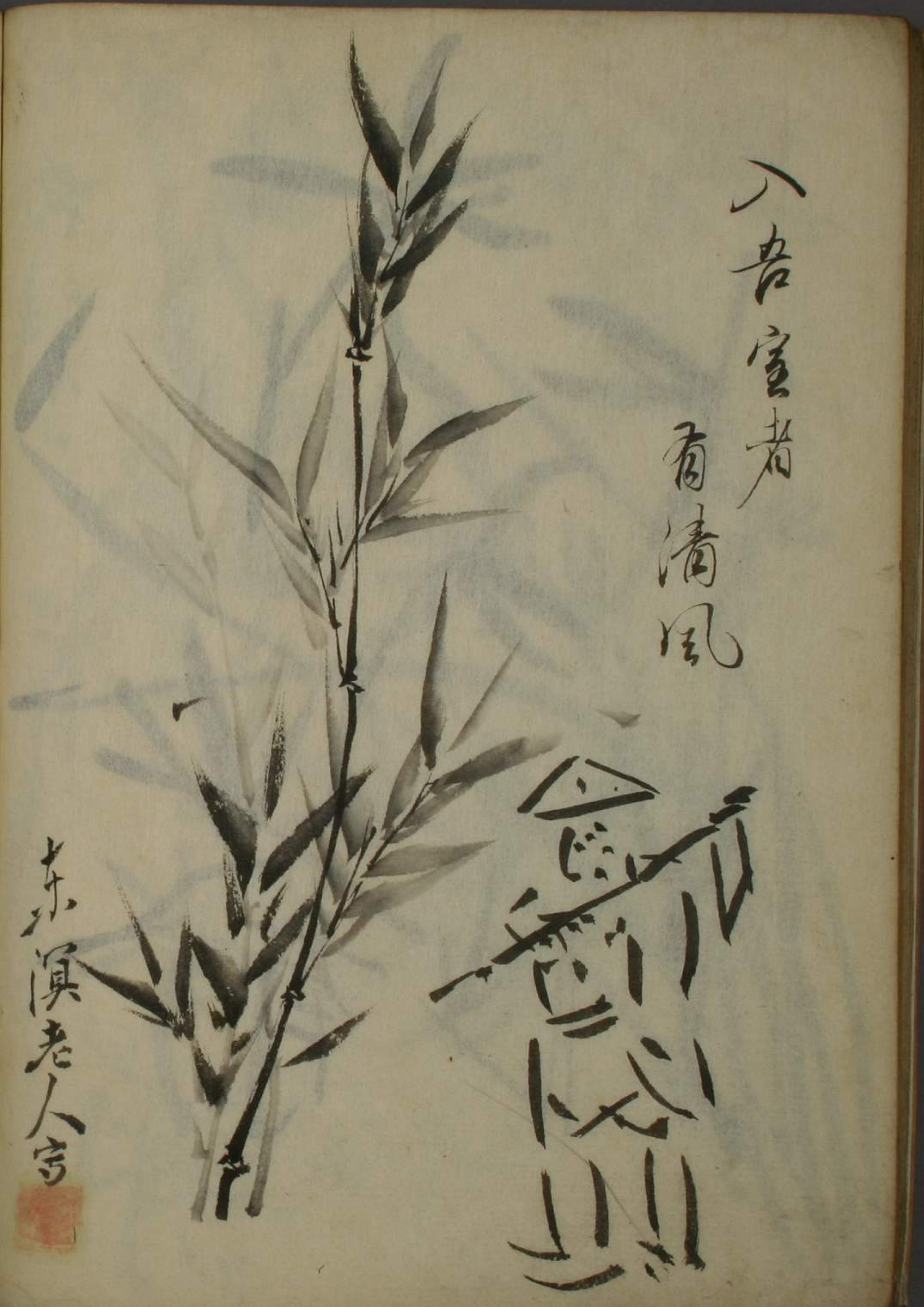
竹有

竹有



竹

竹



入吾室者  
有清風

竹

朱溪老人字







その夕ぐさ

流の跡

夕ぐさ

柳のふに

花の香

こころ



夕ぐさ

くむる

見風流

歌

たんとする

研氣子  
1113



奈西初卷八日求

方名彦

柳家桂

